

日本限定仕様のEL34パラPP・A級アンプ。
柔らかなヴォーカルやストリングスの艶が絶妙。
ハイパワーをむき出さない大人びたトーンで
真空管増幅らしい温かみを醸し出す——高津 修

EL34パラレルプッシュアップのA級出力インテグレートッドアンプ。先般E.A.R.製品の輸入元が変わり、その記念モデルとして発売された日本向けの限定発売機である。

回路構成としては、ハイゲインタイプのパワーアンプで、ラインレベル入力専用設計。PHONO銘の入力端子も見えるけれど、イコライザーアンプを内蔵しているわけではなく、アナログディスク再生に対しては、別売E.A.R. 834 P フォノステージ等を併用するようになっている。

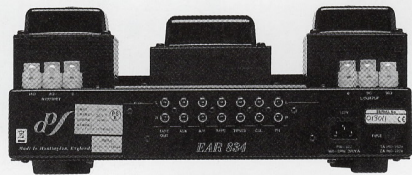
日本国限定の記念モデルと記したが、本機は欧米で以前から販売されている人気作E.A.R. 834をモディファイしたスペシャルヴァージョンで、価格をなるべく抑えながら本邦での認知度をアップする、という点におおきな狙いがあるようだ。オールブラック仕上げのほか、電源回路にチョークコイルを追加したことで、日本人に馴染み深い音質を提供するとされている。

基本的にはすでにこなれたアンプなので、内容もE.A.R.製品としては比較的オーソドックスなものである。信号系の電圧増幅段は、差動またはカソード結合回路を連ねた2段構成。往年のマイケルソン&オースティン・アンプ

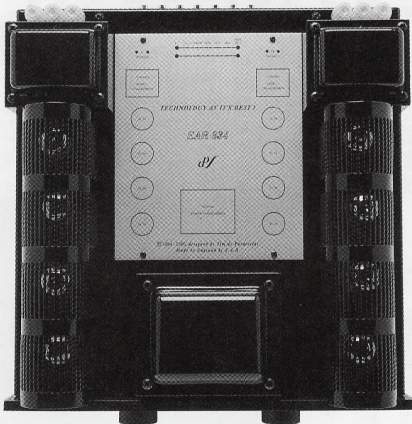
Integrated Amplifier



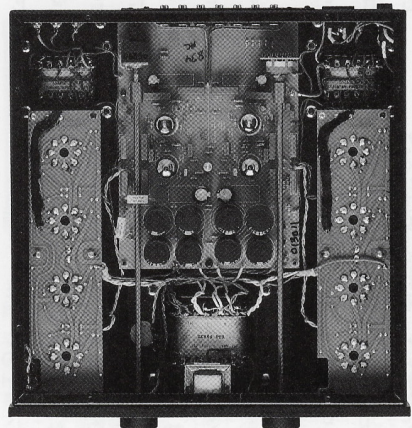
シャーシはオールブラック仕上げ。フロントパネル左に入力セレクター、右にボリュームノブを配する。



8Ωと16Ωのスピーカー出力端子を天板後方に装備。リアパネル中央にテープアウト端子1系統と、LINE入力端子6系統を装備している。



出力管EL34はシャーシ左右に各4本ずつシンメトリカルに配置。真空管保護カバーはシャーシ内部からネジ留めされている。中央フロント側の電源トランス、シャーシ後方の左右に配する出力トランスはいずれもYOSHINO銘の自社製。



底面から内部を見る。写真中央の基板のリアパネル寄りに入力段の12AX7/ECC83×2、その下にドライバー段の6AQ8/ECC85×2を配する。

EAR EAR834 Custom

¥488,000

●出力:50W+50W ●入力端子:LINE6系統(RCAアンバランス) ●入力感度/インピーダンス:200mV/47kΩ ●負荷インピーダンス:8Ω,16Ω ●使用真空管:ECC83×2,ECC85×2,EL34×8 ●寸法/重量:W405×H150×D405mm/20kg ●問合せ先:ヨシノレーディング(株) ☎050(3375)3975

を彷彿とさせるような設計で、続く5極接続の出力段にはセルフバイアス方式を採用している。オリジナルのEAR834は、6L6を搭載したものが多くようだ。スピーカー出力端子は8Ωと16Ωの2系統。
CD入力端子にアキュフェーズのプレーヤーを直接接続して試聴した。ゲインは中庸、またはいくぶん低め。どちらかといえば、大型スピーカーに適しそうな設定だ。

A級出力で50W×2はハイパワーだ

増幅らしい温かみというか、なんとなくほっとするような安らぎを醸し出すアンプである。ほんのり洪くて柔らかなヴォーカルの質感表現や、ストリングスのまろやかで鼻から抜けるように小粋な艶を耳にすると、これがEARの世界だと思う。今回はいつものリアレンススピーカーB&W800Di amondが手配できず、JBLのK2S9900を使用したのだが、現代アメリカンサウンドの代表選手みたいなこのスピーカーが、くつろいだ風情で

が、そのことをことさらにむき出さない大人びたアンプ。真空管

まったく悠然と唄う。オーディオの醍醐味とは、一面こういうことではないか、と本当に興味深かった。
クラシックのフルオーケストラでは、音量を欲張るとさすがに駆動力の限度が出る。今様の半導体アンプほど超低域が伸びるわけではないし、壮麗なトウツテイの輝きもと欲しくもなる。とはいえ、和声の重なり厚さや、濃密な空気がホーンから吹き寄せらるさまは、やつぱり球と、それからパラヴィッチーニ・トランスの威力に相違ない。けつして万能無双ではないけれど、なるほど上等な真空管アンプである。セルフバイアスなので、出力管を替えてみる愉しみもありそうだ。